

寺院名物シリーズ ⑳

正法寺「本堂両余間襖絵」

平成二十九年「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要並びに第十八代住職継職法要」

本堂両余間襖絵「菩薩に龍」水墨画

水墨画家新田芳道氏作 (浜田市三隅町)



編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会
発行 山陰教区教務所
〒690-0003 松江市大正町四四三ノ一 本願寺山陰教堂
TEL 〇八五二 〇四七四七
FAX 〇八五二 〇八三五一
発行 佐々木了慎

ご挨拶

山陰教区教務所長
本願寺山陰教堂主管

佐々木了慎

本年四月一日付にて、山陰教区教務所長・本願寺山陰教堂主管を拝命いたしました佐々木了慎(ささき りょうしん)と申します。何卒宜しくお願い申しあげます。本年三月までは、本山本願寺の内務室に勤務いたしておりました。

高橋格昭前所長には、山陰教区はもとより、長年に亘って宗門発展のためにご尽力されましたこと、誠に尊敬の念に堪えません。

さて、私は初めて教務所長の任に就かせていただいた若輩者でございますが、教区の皆様に変温かく迎えていただき、ご指導・ご協力を賜っておりましますこと、誠に有り難く、衷心より御礼申しあげます。

教区の方々から度々伺いするのは、「山陰教区は、とにかくご法義を大切にするとところ」という言葉です。確かに私は着任以来、多くの妙好人を輩出されてきたこの山陰教区の、先人の方々から脈々と受け継がれるご法義の

ご挨拶

前山陰教区教務所長
前本願寺山陰教堂主管

高橋格昭

慈光照護のもと、みなさまにおかれましてはご健勝にてお念仏相続のことお慶び申し上げます。この度、四月一日付をもちまして山陰教区教務所長・本願寺山陰教堂主管を退職いたしました。

篤さ、また、ご法義に基づく人と人との繋がり、の強さ、さらに、人柄・土地柄の温かさを身に染みて感じながら、日々職務にあたらせていただいております。

宗門の統計を見ても、山陰教区は、帰敬式受式者、門徒推進員登録者、念仏奉仕団参加者など、全国でも有数の数をかぞえる教区です。み教を慶ばれ、念仏者としての生き方を実践しておられる皆様の行動力が、我々の宗門の力の源ではないかと、つくづく感じつつ、心から感謝申しあげることになります。

社会の情勢が大きく変化し、お寺を取り巻く環境も大変厳しさを増し、数多くの課題を抱えるなか、何分にも浅学菲才の私ではございますが、皆様方のご指導・お力添えを賜りながら、職責を全うすべく精一杯努めてまいります。

重ねて宜しくお願い申しあげまして、着任の挨拶とさせていただきます。

平成二十九年の就任以来、二年間の在職中は公私にわたり一方ならぬご厚情を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

二〇一八（平成三十）年度 寺族婦人研修会

二〇一九（平成三十一）年三月五日、山陰教堂教化センター研修室にて、二〇一八（平成三十）年度の寺族婦人研修会を開催いたしました。

宗門では、より多くの人や寺院が参画できる取り組みとして、〈貧困の克服に向けて〉「Dana for World Peace」―子どもたちを育むために―が、重点プロジェクトの実践目標として定められました。

寺族婦人の皆様がこの実践目標を取り組むにあたって、「貧困問題」について学ぶための研修会です。浄土

真宗本願寺派総合研究所・菊川一道研究員から、実例を交えながら、スライドショーを使って講義をいただきました。

貧困問題は地域と関わることでしか見えてこない問題であり、地域とつながりを持つお寺は、貧困の現実を可視化し、取り組むことができる重要な存在です。

菊川研究員は講義の最後に、「将来を担う子どもたちが安心して過ごせるよう、実践運動を通して共に取り組んでまいりましょう。」と結ばれました。

『二〇一九年度 布教団総会・研修会』

四月二十四日、山陰教区布教団総会・研修会を山陰教堂教化センターにて開催いたしました。

総会では、二〇一八年度事業・決算報告、二〇一九年度事業計画（案）・会計予算（案）についてご協議いただき、参加された団員のみなさまに承認していただきました。

続いての研修会では、波佐谷兼真

僧侶養成部長から「これからの布教使について」の講義をいただきました。僧侶養成部が行なったアンケートでは、多くの方が思った以上に寺院に興味を持たれているとの結果のようですが、お寺に来ていただいてお聴聞いただくことには、なかなかつながっていないというのが現状のようです。

これからの日本社会で求められる布教使とは、御法を伝えていくには何をしなければならぬか：いろいろな面で考えさせられる研修会でした。



手をあわせ 心あわせて しあわせに

報恩



感謝

ぶつだんの

内田恵造商店

・木次・ 0854-42-0266 ・下熊谷・ 0854-42-3711 ・出雲・ 0853-21-3253

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店

寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 古田た佛具製作所

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーファックス 0120-343-036

連研履修者研修会に参加して

大田東組 真浄寺 加藤 裕 治

「研修会に参加してみませんか。」亡き母の何回目かの月法要の後、ご院家さんに誘っていただきました。軽い気持ちで引き受けたものの当日行ってみてビックリ。全十二回、一年にわたる連研です。「幸せとは、仏事はなぜ行うのか」など、日頃考えることも無いような問題についての話し合い法座に、戸惑いを覚えながら始まったのが二年前です。沢山の貴重なお話を聞かせていただくことができました。

そんな私でしたが、今回履修者研修会に参加させていただきました。

テーマは「念仏者の生き方」です。仏さまは自分にとってどのような存在か、また日頃の生活の中で自分ができることは何かを考えては、との問題提起がありました。班別話し合い法座では、各自が経験に沿った沢山の思いを出し合い、とても充実した時間でした。その後まとめとして出していた「私たちのちかい」についての親教の中から「：穏やかな顔と優しいことばを大切にします。：」の部分が今の自分に最もしっくりくると感じ、同時に日々意識して生活できるのではないかと思います。

決意を新たにしたところです。その後の仏事勤行指導では、見よう見まねで行っていた正信偈の称え方には、きちんとした出音があることや、正しいお焼香の仕方など教えていただき、とても参考になりました。他にも式章についてのお話しやお念珠の持ち方、置き方、お経本の頂き方と持ち方などの指導がありました。これからは自信を持って正しい作法が実践できそうです。

先にも書きましたように、お寺との交流がまだ二年半と短い私にとって、このような研修会は、自分の生活を見つめ直したり、仏教のこと、仏さまのことを知るとても良い機会です。これからも色々な会に参加したいと思っています。



最後に講師の先生、スタッフの皆様にご挨拶を申し上げます。ありがとうございました。

山陰教区門推実践運動研修会に参加して

江津組願乗寺 西 本 佳 矩

当日の法話、岡本広樹講師から法話というより、これから始まる皆さん方の話し合いの問題提起の意味も加えて話します。

ご門主のご親教を体して人間の愚かさ、無明煩惱を克服する「生き方」を、仏教とは（自然）のこと、一人ひとりが「如是我聞」から始まった

「法」を体して考えてみましょう。

聴聞とは、求めて聞く、ただ耳に入る、入れるだけでは？ 講師先生法話のあと、約八十名が八班に分会して「念仏者の生き方」について話し合いました。生き方、気にせず生きてる私たちにとっては、身の引きしめる問いでした。

テーマから始まる話し合いで、人に迷惑をかけずに生きてますか？ 気づかされました。

又聴聞へのきっかけは、多くの方は身内との別れがあり、お寺参りを通して、人は一人では生きられない、互いに因縁でつながり自覚するなしで生きてるが、聴聞でうなづき気づかされて来た。その他活発な多くの発言がありました。

最後に講師先生からまとめの話があり、人は互いに尊ぶ心があれば浄

土真宗の正しい教えがわかり、信心のそれは智慧を知ることである。

如来さまに願う心が生れ、遠く仏縁を喜ぶ心が生れると知り、多くの方々の話し合いの中から気づきの大切さを知りました。

終わりに、永年仏仕や門推の会合に参加させて頂き、感じたことは内容のレベルが高くなったと教えられ感謝して帰りました。

勤式練習所開所式

勤式の向上を図ることを目的とし、本年度も勤式練習所を開催いたします。

五月九日(木)、山陰教堂教化センター研修室で開所式を行い、小原勤式指導員から講義をいただきました。本年度は、僧侶の方を対象とした講義を六回、門信徒の方を対象とした講義を二回、計八回開催(うち、十二月は勤式研修会と併修)。僧侶の方向けの講義では、報恩講でのお勤めについての講義を前半三回開催します(①結果向け、②導師向け、③総まとめ)。

この日は、伽陀、三奉請、華籠の

作法、総礼頌、合殺念仏についてなど、結果の方向けの講義をいただきました。報恩講のお勤めの講義とあって、ご参加の皆さん全員が熱心に受講されていました。

僧侶の方を対象とした講義は、六回の講義を山陰教堂で行います。また、門信徒を対象とした講義を九月、十月に東部と西部でそれぞれ開催します(東部会場は鳥取伯耆組勝福寺、西部会場は江津組光善寺(波積))。

お申込みは年度中随時受付致します。受講料は一、〇〇〇円で、当日のお申し込みも可能です。連続受講が必要な講義ではありませんので、一回だけの受講も可能です。どうぞお誘い合わせのうえ、受講ください。

二〇一九年度山陰教区仏教婦人会連盟総会・研修会

期 日 二〇一九(令和元)年

五月十七日(金)

会 場 松江勤労者総合福祉セン

ター(松江テルサ)

参加者 三四〇名

松江テルサを会場に午前は総会を開催。前年度事業報告・決算報告並びに監査報告の後、今年度事業計画案・予算案についてご審議いただきました。質疑では仏婦綱領改定に至る経緯について、単位会数の減少問

題や若婦人研修会のあり方など活発なご質問・ご意見をいただきました。引き続き、午後からは仏婦総連盟講師の西原祐治先生をご講師にお迎えして、研修会を開催。西原先生は、現在は東京教区ですが、島根県ご出身ということで、時折地元のエピソードを交えながら親しみやすい雰囲気の中、講題「阿弥陀如来の願い」についてお話しをしていただきました。



二〇一九年度ビハラー山陰総会・研修会

期 日 二〇一九(令和元)年

六月十九日(水)

会 場 本願寺山陰教堂

教化センター研修室

参加者 三十二名

午前は総会を開催。前年度事業報告・決算報告並びに監査報告、続いて今年度事業計画案・予算案をご審議いただきました。午後からの研修会は、奈倉道隆先生(西本願寺医師の会会員・東海学園大学名誉教授)をご講師にお迎えし「ビハラー活動と寄り添う傾聴」と題してご講話をいただきました。このたびの研修会開催に際し先生からは「ビハラー発足のころは、傾聴の実践も盛んでした。生老病死の苦に寄り添う実践として、重視されていきました。高齢化が進むこれからの実践でも、大切にされるかと思えます。微力を尽くして研修させていただきます。」との温かいお言葉をいただきました。傾聴の方法や、医療・福祉と共にあるビハラーの実践について、ご自身の体験談を交えながら、丁寧な語り口でお話しをしていただきました。



山陰教区教区会議員・組長合同本山参拝研修

二〇一九年五月二十七日(月)、二十八日(火) 教区会議員と組長二十名のご参加をいただき合同本山参拝研修を行いました。開会行事の後、池田行信総務から「宗門の現状について」と題して講義をいただきました。「宗門の現状」について、歴史や経緯を踏まえつつ、数字をお示しいただきながらの具体的な講義でした。その一例として賦課制度についてお話をいただきました。現在の賦課制度は過去の歴史のうえにあるが、この今の賦課制度等の課題なども浮き彫りにしつつ、宗門全体で大局的な計画を練らなければならぬ時代であり、待ったなしの状況になりつつあるとの認識を示されました。その後の質疑の時間には、参加者から宗門と教区に対する熱意ある質問がありました。総務からは丁寧な返答をいただきました。学びを得る機会となりました。次に統合企画室の笠松弘隆賛事から「宗門総合振興計画について」の講義をいただきました。特に「真宗教団連合の浄土真宗に関する実態把握調査(二〇一八年)」から引用された「寺院側の働きかけと門徒側のニーズにずれが生じている可能性があり、結果的に接点を持つ機会を逃してしまっていることが考えられる」という結果から、「今一度、伝道の方法を考える時ではないでしょうか」との提言は共感を得るものとなりました。その後、会場を変え懇親会を行い、日ごろからの宗門に関する思いについて胸襟を開いて語り合い、翌日は修復が進められている阿弥陀堂・飛雲閣・唐門の見学をいたしました。中でも阿弥陀堂内陣修復工事現場見学は、山陰教区が初めてとのこと、特別に許可をいただいたものとなりました。

ご縁まち
交流報告

二〇一九年六月一日(土) 寺院後継者のための交流会を開催いたしました。これは、二〇一二年に山陰教区実践運動にて寺院実態調査を行った際に、後継者がいないと回答された寺院が約三分の一あったことにより始まったものです。今回は男性三名、女性三名の参加を頂きました。

お昼前に本願寺山陰教堂に集合いただき、レクリエーションの後、昼食会場に移動しました。松江市内の観光施設で会話をしていただく時間を設定し、わずかな時間ですが楽しく過ごしていただくことに気を配りました。

普段お寺中心の生活等で知り合う機会があまりないと思われる方は良い機会になるうかと思えます。今後定期的に開催していく予定です。

教務所
夏季休暇について

当教区教務所夏季休暇を次の通りとさせていただきます。

二〇一九(令和元)年八月十三日(火) から八月十六日(金) まで

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

IZUTSU SINCE 1705

代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三栄町十四番地二一
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902

印刷と出版でできること。

編集・デザイン・印刷・出版のプロとして
様々なソリューションを提供する。

人と向き合い、地域と向き合い一緒にってつくること。

それが私たちにできる、地域貢献のカタチだと考えています。



お客様の良き相談相手になることを目指します

株式会社谷口印刷

ハーベスト出版



山陰教区仏教壮年会連盟総会及び研修会

仏教壮年会連盟理事長 村上 勉

六月十五日に開催しました総会及び研修会の概要を報告します。

総会につきましては、八十名の参加で開催し、平成三十年度事業及び決算の報告を行い承認を得ました。次に二〇一九年度事業計画(案)及び予算(案)を上程し承認を得ました。質疑では、会費未納及び加盟単位について、活発な質問があり、執

行部として今後地域に出かけて事情調査等を行うことを説明し、今後気を引き締めて執行に当る決意を述べて総会を終了しました。

午後からは、班別に分かれて意見交換を行いました。

昨年まで実施していた講師を迎えての研修会とは一味違った形式です。各地域をグループ分けし、単位

「平和の鐘」

「信心の本質にかかわる問題として考える」

江津組西教寺 三谷 卓良

私たち真宗念仏者は、親鸞聖人のみ教えを依りどころとし、「御念仏ここにいられて申して 世の中安穩なれ 仏法ひろまれ」を願ひ続けています。しかし、一方では、国家の歩みに翻弄された、悲しい歴史も抱えています。その反省に立てばこそ、

にも通じる、日本国憲法第九条です。「戦争の放棄、軍備及び交戦権の否認」を定めたものです。この平和の理念溢れる「平和憲法」により、戦争を起こさず、「いのち」を奪った

り奪われたりすることがなく、今日まで至っています。

お念仏を申しつつ二度と過ちを繰り返さないとの決意をし、戦後日本の平和国家への歩みに努めてきました。この歩みを確かに支え続けている

その憲法の平和理念は、憲法解釈によって脅かされようとしている状況だからこそ、私たちは、再び悔恨の歴史を繰り返さぬよう、憲法第九条の平和理念を、真宗念仏者として発信していかなくてはなりません。

心不殺(殺してはならない)の心

江津組の「平和の鐘」は、すべて

会及び組における活動状況を報告していただき、地域特性及び活動に対する考え方にも、それぞれ個性があると感じました、話し合いを行うことにより、今まで受け身であった研修会が、これまでとは一味違った会であったとの参加者の感想も聞きました。



課題としましては、参加者が八十名と減少傾向であり、参加単位数も減少しており、各単位数から最低一名の参加があるように、執行部として努力することが、重要であると強く感じました。

学びを深める機縁となる取り組みです。学ぶことは、何かが変わることです。「平和の鐘」の学びを通して、親鸞聖人のみ教えを依りどころとする、真宗念仏者としての歩みを、ともに進めさせていただきたいものです。

の戦没者を追悼し、ともに平和への誓いを新たにするため、九月十八日午後一時十五分「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」と同日、同時刻に十二カ寺が取り組みました。併せて同日「平和の鐘学習会」や秋彼岸法座を開座して、「平和の鐘」の趣旨を図ったり、毎年安穩なる世の中を願って安穩千羽鶴を「原爆の子の像」へお供えしている寺院もあります。

「平和の鐘」は、真宗の信心から憲法・平和・戦争・ヤスクニについて、

仏教徒 われらしずかに
声あげん ブッダの言葉
「兵戈無用」と
(朝日歌壇)

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

「平和の鐘」

日時：二〇一九 (令和元) 年

九月十八日 (水)

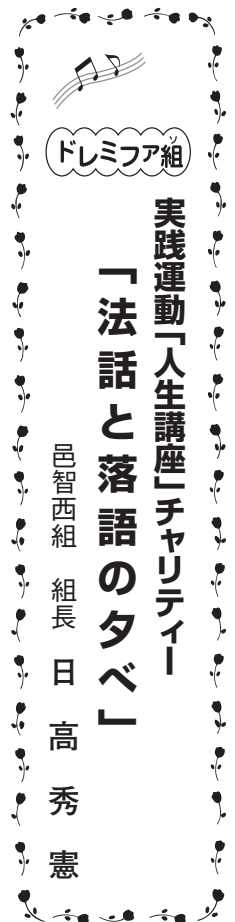
午後一時十五分～一時二十分

※詳細は、宗報七月号、本願寺ホームページをご参照ください。



教区報第一四三号の編集後記に「人が集まるといふことは、それなりの魅力がないと集まりそうにない。今、多くの寺院では参拝者の減少に歯止めがかからない状況です。一人でも多くの方が『今生最後のご縁』に遇っていただける魅力と可能性を探さなければと思います。」と、結ばれていました。

邑智西組は十七ヶ寺で形成されており、その内四ヶ寺が代務という状況です。昔からご法義のある地方と



してご法座が多く勤められてきましたが、過疎化と高齢化で最近はお参りが少なくなる一方で、各住職は悩み多く思案中です。

そんな中で邑智西組には、先輩住職方が今日まで毎年開催してくださった組行事、「人生講座」があります。一九九〇（平成二）年には始まり今年で二十九回目を迎えます。会場はあえてお寺でなく幅広く誰でも気楽に参加できるようにと公共施設（公民館、交流センターなど）を使用します。講師にはご縁のある先生を多方面からお願ひして、一人でも多くの方に浄土真宗のみ教えに遇っていただきたく開催しております。

これまでは講義中心で無料で開催していましたが、参加者は多かつたり少なかつたりでしたが、六年前（第二十四回目）からはチャリティー「人生講座」として参加費（五百円～千円）をいただいています。東日本大震災からはじまり各地で大きな災害が続いたことで、被災された方々の苦難に寄り添う支援活動として教務所等へ毎回送らせていただいております。また、その時から「法話と落語の

夕べ」「法話と歌の夕べ」「法話と雅楽の夕べ」等と、法話と何かをセットで開催することにしました。このことで若い今までご縁のなかった方々にも好評をいただき、毎回二五〇名～三〇〇名が参加してくださっています。中にはチャリティーなのでと券だけ購入してくださる方々もあり、ありがたいことです。

法話だけでなく何かを組み合わせて取り組むことで、ご縁の少ない若い方々が少しでもみ教えに出遇う機会につながる事が一番の喜びです。今、私にできること、実践運動の一環として、過疎化の真っ只中で寺院・総代・仏婦・門推さん達の協力のもと頑張つて毎年開催しております。今年度も「落語と法話の夕べ」を開催し、参加費は「子どもたちの笑顔のために」募金として本願寺へ送ります。

ご法義の篤い地域でも過疎化がすすむ一方で、各お寺でのご法座の回数も少しずつ減らさざるをえず、その日数も三日が二日に、二日が一日になり、夜座もむずかしくなつてきております。

過疎地域の寺院は、頑張りにも限界を感じ、これから先不安だらけですが、「今、私にできること」を考えながらわずかでも社会貢献に取り組み、今を精一杯、お念仏相続に努めたいと思うことです。

ご本山への団体参拝は弊社へご用命をよろしくお願い致します。

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB 松江支店**

〒690-0003

松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階

TEL 0852-23-6720

FAX 0852-23-7739

営業時間：9:30～17:30（土・日・祝日休業）

近 御本山用達

株式会社 **川勝法衣店**

0120-075-055

〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入

TEL.075-371-0367 (代)

FAX.075-371-5088

皆さんは、画家の『いわさきちひろ』さんをご存知でしょうか。名前を知らなくても、ちひろさんの絵を見られた方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。一九一八年十二月十五日に、子どもの水彩画に代表される日本の画家・絵本作家『いわさきちひろ』さんは、福井県武生市で生まれました。ちひろさんが残したたくさんの絵に、日本中の人が幾度も心癒されたことでしょう。しかし、その生涯については皆が知るところではありません。戦争中、最初の結婚が悲しい結末を迎え、その後満州で悲惨な生活を送り、帰国後は空襲で傷つく多くの子どもたちを目の当たりにして、ちひろさんは平和を願い、子どもたちの幸せを願いながら絵筆を握る生き方を見つけ出しました。一九七四年に五十五年の生涯を終えるまで、『戦火の中の子どもたち』などに代表される『世界中の子どもたちのしあわせと平和』をテーマとした作品を一貫して描き続けられました。

東京練馬と信州安曇野の「ちひろ美術館」は、今でも多くの家族連れや、ちひろさんのファンでにぎわい、ちひろさんが描いた作品

憂 楽 帳

ちひろ公演にむけて

大田東組 正蔵坊
菅原 憲
(ちひろ大田公演事務局)

は今でも多くの人々に愛されています。昨年(二〇一八年)『いわさきちひろ』生誕一〇〇年を迎え、鶴山仁さん演出による舞台「ちひろ」私、絵と結婚するの」が劇団前進座さんによって実現致しました。その公演を今年の秋(十月十五日(火)十五時開演)大田市民会館にて上演することになりました。本作では、ちひろさんがその生き方を決めた原点とも言える、戦後すぐの三年半

に焦点を当て、ちひろさんの葛藤と成長が描かれています。九条武子さまの演劇『如月の華』以来、四年ぶりとなる劇団前進座さんの公演です。是非教区内のご寺院さま、ご門徒さまにご覧いただく機縁となりますようお願い申し上げます。南無

ちひろ前進座大田公演

『ちひろ』私、絵と結婚するの』

二〇一九年十月十五日(火)

十五時開演(十四時半開場)

S席 五、〇〇〇円

A席 三、〇〇〇円

学生、障がい者 三、〇〇〇円

問い合わせ 申込み

事務局 菅原 憲 (正蔵坊)

(〇八五四) 八二一 一四六三

編集後記

別に用事があつた訳でもありませんが、慰安を兼ねて二十数年ぶりに計画も立てずに東京へ行ってきました。当時は電車に乗る際には券売機で切符を購入して、自動改札を通るというシステムでしたが今やキャッシュレス時代、カード一枚で電車やバスの乗降、買い物までできてしまう便利な街になっていました。目的地を入力すればそこまでのルートや地下鉄の乗換駅まで示してくれるデジタル機器。確かに今後、より便利な時代になることは有難いことです。が、昨年の北海道地震のブラックアウトで電子決済が出来なかったことを考えると不安さえも感じます。

空港のラウンジで仕事なのかパソコンを叩き続けるビジネスマン、携帯端末で情報を収集している観光客の姿を観て、アナログ感が残る山陰の良さを改めて実感しました。あと数年もすれば、ここ山陰も同じような光景になっていくことに何か寂しささえも感じました。(S)



ご本山の団体参拝は我が社にお任せ下さい

近畿日本ツーリスト

株式会社 近畿日本ツーリスト中国四国 山陰支店

〒690-0887 松江市殿町 517 アルファステイ殿町 1F

TEL 0852-22-4893 / FAX 0852-27-8359

営業時間 10:00~17:30 (土・日・祝日休業)

協賛
瀬尾浩義商店

〒733-0185
広島市西区田方三丁目

TEL 〇八二一 二七二 一八四六



このQRコードをスマートフォンやタブレットのカメラで読み込むと、山陰教区のホームページをご覧ください。